

感染危険 広範な周知必要



サイト改ざん

1面

これまで「安全」と思われてきた官公庁や企業などのウェブサイトを見るだけで感染するケースが急増している。利用者が気づくのは困難で、サイト運営者側の安全対策に対する責任はこれまで以上に重くなる。

かつてはウイルス感染の主流はアダルトサイトで動画をダウンロードしたり、不審なメールの添付ファイ

ルを開いたりするなど、感染者側も「思い当たる行為」をしているケースだった。

ところが、2009年頃から、今回のように利用者に「過失」がなくても感染するケースが増え始めている。

ウイルス対策ソフトやアプリケーションを常に最新版にすれば一定程度防げるとはいえ、攻撃はどんどん巧妙化しており、利用者側だけの対策では限界がある。

サイト運営者側が改ざんに気づいても、その間、閲

覧した利用者についてはIPアドレスしか分からないことが多く、感染の危険性を個別に通知することは難しい。利用者が感染を知らないまま、個人情報を盗まれ続ける恐れがある。

サイト運営者は、徹底した改ざん防止策を講じることはもちろん、閲覧者に感染の危険があると分かった際は、できるだけ広範囲に周知するよう努力すべきだ。

(社会部 安井良典)